

令和元年度ホームステイ派遣事業への参加を通して

1 はじめに

15年以上前にポルトガルのシントラに行った経験を思い出しながら、準備を行いました。中高生4名のうち3名が海外旅行が初めてということだったので、随行人として生徒たちを安全・確実にアメリカへ連れて行き、ホームステイ先の家族に引き合わせるために、乗り遅れや乗り間違い等でのトラブルが起きないようにすることを一番に考えました。4人の生徒たちに大村市長への表敬訪問で初めて出会いましたが、すでに仲の良い様子が見られ、どのような体験をこの生徒たちと一緒にできるのか楽しみを感じました。長崎から羽田空港、そしてサンフランシスコ国際空港まで約10時間以上のフライトとなりました。入国検査でさらに1時間以上もかかりましたが、到着ロビーではホームステイファミリーや姉妹都市協会の佐瀬さんが長時間待っていたにもかかわらず笑顔で出迎えていただいたことを憶えています。ほっとした瞬間でした。



2 サンカルロス市での生活

まず感じたのは過ごしやすい気候でした。ホームステイ中はほとんど雲1つない晴天続きでした。日本ではそのころ毎日が35度以上を超えていましたが、サンカルロスでは朝や夕方は肌寒い日もありました。日中も30度を超えることはなく、一日中外出しても暑さであまり疲れを感じることはありませんでした。

滞在中にいろいろな場所に連れて行っていただきましたが、特に印象に残っているのはフェイスブックとグーグルの企業訪問、グレートアメリカというアミューズメントパーク、そしてサンフランシスコのダウンタウン巡りでした。企業訪問ではグーグルで車の自動運転に関する技術について学んだり、フェイスブックでは会社というより一つの大きな街として機能している様子がわかりました。また、役員の方から話をお聞きして、生徒たちがこれからの人生の生き方や目標とするものなどとても大切な事柄を学んだのではないかと思います。グレートアメリカでは日本の生徒とアメリカの生徒が本当に笑顔で楽しく過ごしていました。私自身も久しぶりのローラーコースターに興奮しました。食べ物ではファストフード店で出てきた一人前のフライドポテトの量や外食した際のボリュームある盛りつけはさすがアメリカだなとも感じました。サンフランシスコのダウンタウン巡りでは普段テレビで見るような街並みや人の様子が実際目の前にありました。また、手動ケーブルカーに乗って体を半分以上外にはみ出しながら坂を下っていく体験もとても面白かったです。他にもサンカ

ルロス市の歴史を学べる博物館やサンカルロス市の市長訪問、コンピューター科学館、トランポリンセンター、カールモントハイスクールなど様々な場所を訪れることができました。

3 終わりに

今振り返ってみるとあっという間の9日間でした。同時にサンカルロス市に再び訪れたいと考える強い気持ちがありました。今回大きな事故やトラブルもなく終えることができたのも市の企画政策課の方々、いつも一緒に行動しサポートしてくれたアメリカの生徒たち4人（Ryan、Lucas、Tomas、Theo）、ホスピタリティー精神にあふれたホストファミリー、楽しいプランを立て、私たちのことを常に気遣っていただいた、サンカルロス市姉妹都市協会の佐瀬様、そしてムードメーカーとしてどんなときも雰囲気明るく盛り上げてくれた竹山さん、礼儀正しく、いつも感謝の気持ちを忘れず、海外の人たちに優しい心配りができる藤本さん、中学生ながら落ち着いて行動し、高校生たちからもとても可愛がられた小森さん、女子三人のどんな要望にも広い心と笑顔で対応し、将来はアメリカの大学に進学したいと考えている緒方さん。それぞれ素晴らしいキャラクターの持ち主でした。今回の事業を通して4人が英語だけでなく、人としてのスキルをさらにアップしてくれことを期待したいと思います。最後にこの事業に関わっていただいた全ての皆様に感謝します。ありがとうございました。

